にしく市民活動支援センター
にしとも広場

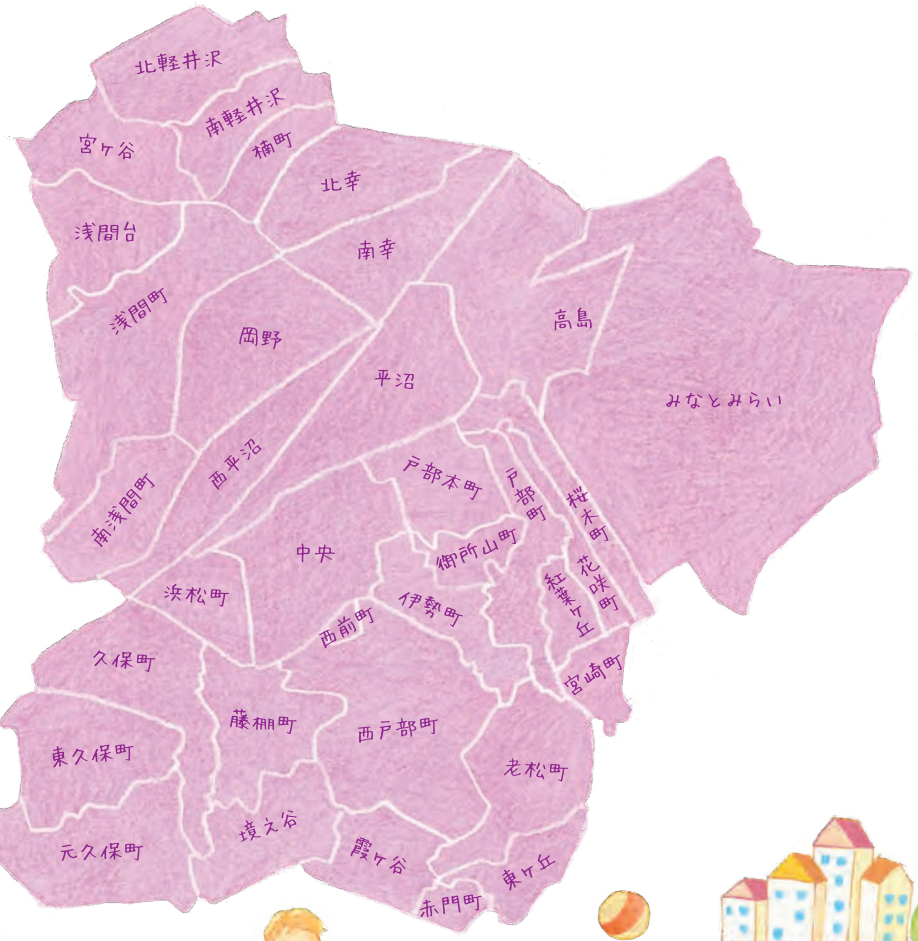
人と活動のつながりづくりを応援する

にしとも広場

2017
10号

共に暮らし、育つ、まち

～自分のまちという想いはどこからくるの？～



（左）「横浜・藤棚シネマ商店街」では、アニメお菓子ワークショップを開催（7/29）。親子での参加者も多く、多世代交流の場となりました。
（右上）ロゼットブローチ作りのワークショップは、月 2 回程度、平日午前中に開催中。子育て世代の女性たちが企画者であり、参加者です。
（右下）おいしくて楽しいアニメのお菓子が完成。

長い時間をかけて成長する“藤棚のような”場所に

みんなが気にかけてくれる建物、住む人も地域の人も…

2016 年 12 月、藤棚商店街から少し入った静かな住宅地に、「藤棚のアパートメント」が完成しました。この建物の大きな特徴は、住人もご近所さんも集うことのできる、地域に開かれた共有スペースがあること。会合、ワークショップ、展示など、地域の方に幅広く使ってもらうための多目的空間が備わっています。

このスペースを「できるだけ多くの方と共有することが大事」と語るのは、オーナーの川口ひろ子さんと、設計を担当した建築家の永田賢一郎さん。

「開かれた共有スペースが建物の価値を高めます。時間が経てば経つほど、そこに人との交流が生まれ、暮らしの蓄積が財産になっていきます。」

今、共有スペースを主に利用しているのは、西区内の 30 代のママさん達。特技や趣味を生かしたワークショップを定期的に開催しています。

また、商店街の会合や、イベント時のワークショップ開催など、地域の方とのつながりも増え、利用の幅は広がっています。

地域で暮らすというコト

永田さんが地域に開かれた共有スペースにこだわるのは、大学院時代に住んでいた「ヨコハマアパー

藤棚のアパートメントの庭にて。右側から永田賢一郎さん、川口ひろ子さん、中島まり子さん。中島さんと川口さんはご近所さんで、大親友。「ここの地域への開かれ方は、私の想像をはるかに超えています。それが一番楽しい。まり子さんと永田君の存在がとても大きい。」（川口さん）

トメント」に由来します。2008 年に、西戸部町に建築されたこのアパートメントにも特徴的な共有スペースがあるのです。

その頃横浜では、「共創」の機運が広がりつつあり、アーティスト支援のために、川口さんが何か斬新なアパートメントを建てたいと、知り合いのデザイナーに設計を頼んだのがきっかけでした。1 階の共有スペースは、外との仕切りが何もなく、住民であるアーティストが個展やイベントを開催すると、地域の子どもたちが少しずつ訪れてくれるようになり、次第に地域に開かれていくのを感じました。

同時に、共有スペースを使用している若者の行動に対しては、地域の方々から厳しい声を多々もらいました。住民の一人だった永田さんは、地域に向かって一生懸命働きかけていく必要があると気づき、住民会議を月に 1 回定期的に開き、暮らし方のルールを丁寧に話し合いました。

地域の方と互いの違いを共有し合いながら、関係性を築いていくことができたのは、建築から数年後のことです。「今では、クリスマス会や流し素麺など面白いイベントを企画しては、地域の方々に声がけし、一緒に楽しんでいます。」

建物が育つとは、人の関係性も育っていくこと

「今とても可能性を感じていることなのですが、建物も人もそれぞれ個性や特徴を出し合い、できることをやって行けば、それぞれが大事な役割になっていくのでは」と語る永田さん。

藤棚のアパートメントの共有スペースから広がる庭には、若い藤棚があります。長い時間をかけて藤棚が成長し、美しい花でいっぱいになるように、共有スペースもじっくり育てていきたいと考えています。

流し素麺のイベント@ヨコハマアパートメント。2 階から新しい樋をかけて、ダイナミックに流しました。「地域の方との交流をきっかけに、もっと住んでいる方と接していきたいと思うようになりました。」（川口さん）

左：庭につながる共有部、15 名程度のワークショップを開くことができます。
右：建物外観、左側に入口があります。

藤棚のアパートメント

共有部分の予約、使用に関する相談など
住　所：西区中央 2-2-8
問合せ：fujidanano@gmail.com
担　当：永田　賢一郎さん

定期開催中のワークショップ

「ロゼットブローチ 1day レッスン」
主　催：craft group **tremani**
問合せ：tremani.yokohama@gmail.com

自分の「まち」になれば、「まち」が育つ

参画型まちづくりの専門家で、建築・都市計画学の分野から、「子ども」と「まち」との関係に着目した調査研究を進めている、横浜市立大学　准教授の三輪律江先生に、地域とつながりながら子どもが育つと、地域にとってどんな変化があるのか。また、一人ひとりが、地域に対してどんな関わり方ができるのか、お話を伺いました。

まちを歩いて感じる

保育園の子どもたちはおおよそ９０㎝の背の高さ。お散歩に出掛けると、小さな虫、近所の空き地、働いている人、道すがらの地域の人、気になることがあれば立ち止まり、五感を使ってまちを探検します。静かな住宅地であっても五感が働きます。三輪先生曰く〝感性（閑静）な住宅地〟。散歩中、お気に入りのポイントがあればカメラでパチリ。そして、楽しませてくれてありがとうの気持ちを込めた、ありがとうカードを作ってプレゼントします。

三輪先生の編書『まち保育のススメ』では、このような「まち保育」の具体的な取り組みの紹介と共に、次のような一文があります。「子どもがまちのあちこちで、さまざまな人と触れ合いながら、〝まちの子ども〟として生活でき、自分が暮らすまちにお気に入りの場所がたくさんあり、共有する仲間、見守る第三者の大人がいることで、まちへの愛着が少しずつ育まれるはずです。」と。

プロフィール　三輪律江（Norie Miwa）

横浜市立大学国際都市学系まちづくりコース
准教授、博士（工学）
愛知県名古屋市出身
専門は、建築・都市計画、参画型まちづくり、こどものための都市環境。
現在は複数の自治体において建築・都市計画系、市民協働、こども子育て計画の審議会委員を務める一方、まちづくりや子育ち支援のNPO理事等も務める。

玄関先のお花がきれいだからと「ありがとうカード」を作ってお家の方にプレゼント。

掲載の図・写真等は全て三輪律江、尾木まり編書『まち保育のススメ―おさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり―』（萌文社、2017）から転載

小さなつながりを、少しずつ結んでいく

小さな子どもにとっての地域は、散歩で歩く範囲。せいぜい半径 300mぐらいの世界から始まります。

成長につれて、自分の中の地域は、保育園、学校、進学、就職と広がっていき、その分関わりは薄くなっていきます。しかし、小さな時に地域との関わりを持って育った子どもたちの心の中には、地域との記憶が残っていくはずです。

今、私たちは、自分が暮らす周辺の子どもたちの名前を、何人ぐらい知っているでしょうか。名前を呼べるということは、その子の「存在」を知っているということです。

一人で抱え込む「孤育て」から、「まち（地域）育て」に変わっていくのは、難しいことではありません。

一人ひとりが近所を知ること、挨拶などをきっかけに、横のつながりを作ることで、まち（地域）で一緒に暮らす人になっていきます。

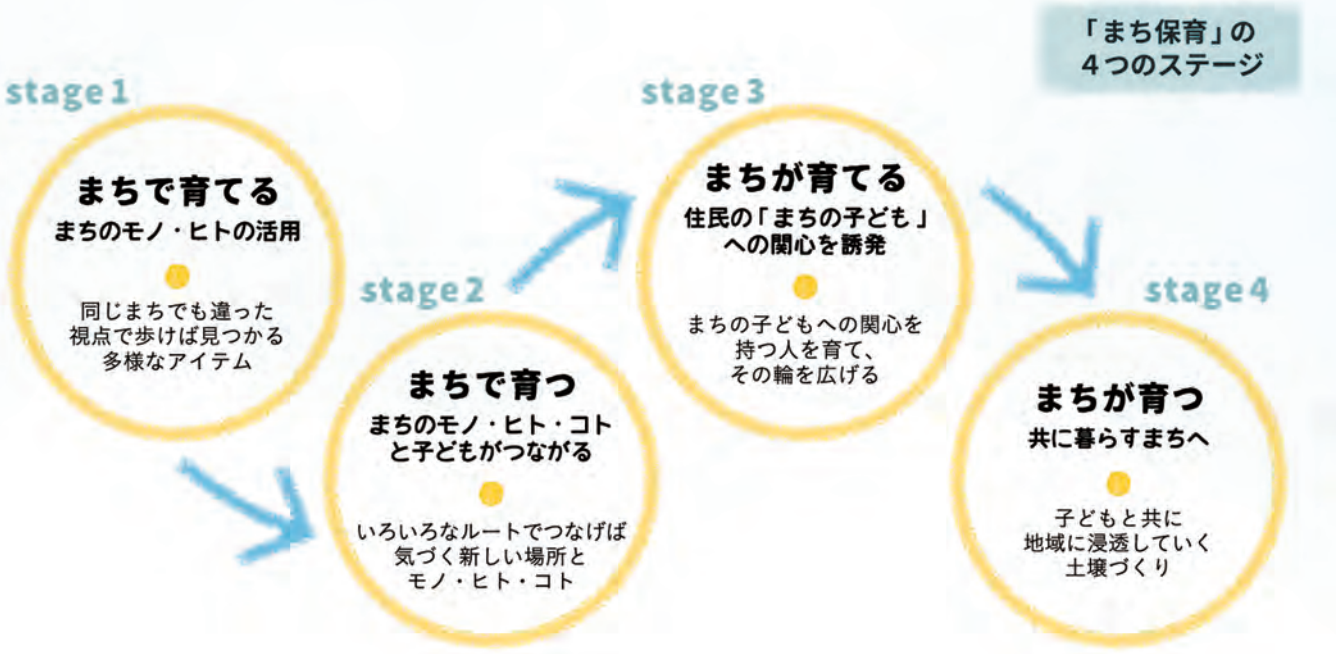


図 7. 子どもがまちで育つ
「まち保育」の4つのステージ

共に暮らすまちへ

三輪先生は、子どもをまち（地域）で育てるということは、未来への投資のようなものと話されています。まちで育った子どもたちは、まちに愛着を持って成長していきます。

ただ暮らすという場ではなく、〝自分のまち（地域）〟という思いが育まれます。

そして、自分のまちという思いは、主体性を持った地域の関わりにつながります。また、まち側からみても、〇〇さんちの子、〇〇園の子だったのが、わがまちの子として共生しあうようになって行きます。

自分のまちという思い。わがまちの子だという思い。それらが呼応しあってまち（地域）を育てていくことになります。共に暮らし、育つ、まちには、そんなステキな関係があります。

（左）羽沢西部自治会館で開かれた食事会。高齢者の方と一緒に食事を楽しみました。
（右上）小学校での交流会。料理の出来上がりを待つ間も、会話に花が咲きます。
（右下）今年 7 月の交流会はポテトピザと白玉だんごです。じゃがいもはもちろん、ナス、トマト、ピーマンも、全て子どもたちが育てました。

見知らぬ関係から、顔見知りの関係へ

子どもたちの「だいこん屋さん」

３年前から一本松小学校の児童との交流会に参加していた羽沢西部自治会会長の米岡さんは、毎回演奏会やゲームで楽しませてくれる子どもたちに、「何かお返しがしたい」と、自治会館で開催している高齢者の食事会に招待しました。食事会前日、子どもたちは立派な大根を届けてくれました。いただいた大根は食事会の一品になりましたが、子どもたちが育てた大根は見事な出来栄えで、米岡さんは近くのお稲荷さんでお店屋さんをやってみてはと勧めたのです。

平成２８年２月、子どもたちは「だいこん屋さん」を開店しました。葉っぱ付きの新鮮な大根は、近隣の方に大好評でした。米岡さんたちも、「だいこん屋さん」で食事会用の大根を購入しました。子どもたちは「お店やさん」を体験し、そのお金で食事会に参加しました。６月には「じゃがいも屋さん」も開店し、こちらも大盛況でした。これからも、豊作の年にはお店屋さんが出来たらいいと、楽しみにしています。

高齢者の方にとっても、子どもたちとの交流は嬉しい時間です。子どもたちに話しかけ、時に自分のおかずをあげたりと、いつもとは違う表情がみられました。

会話を交わすことで育まれるあたたかなつながり

交流を重ねるうちに、子どもたちが顔や名前を覚え、まちで声をかけてくれるようになりました。

見知らぬ人が、顔見知りに変わり、地域の中で小さな会話が生まれ、あたたかなつながりが育まれています。

米岡さんは、このような小さな交流を、細く、長く、何年も積み重ねていくことが、大切だと考えています。

第４地区 羽沢西部自治会
西戸部町１丁目 56 ～ 115

一人でも、だれでも、おいしい食事でつながる場所に

子どもたちの現状を知って

　きっかけは一本のテレビ番組でした。
「おなかいっぱい食べたい、子どもの貧困」のテーマに、終戦後食べものがなかった自分の子ども時代が重なりました。

　西区で保育園、学童、障がい児施設を運営している中川さんは、職員に相談し、「なかま食堂」を開催しました。

　初回は保護者や、園に通う子どもたちを対象に開催しましたが、2 回目からはチラシに加え新聞を発行し、近隣に配ることで、支援の輪を広げようと考えました。

　新聞には、その日の様子やメニューだけでなく、寄付や協力してくれた人を、感謝の言葉と共に紹介しました。

　第六地区や第３地区の町内会、商店街の協力を得て、掲示板やシャッターに新聞を貼ってもらい、初めは、近くに住む一人暮らしの高齢者へ、中川さん自身がチラシを渡して、参加を呼びかけました。

　すると、回を重ねる毎に、参加する人がどんどん増えてきたのです。

毎月、「なかま食堂」開催後に発行される新聞

みんなで食べる、おいしい食事の時間

「もっと回数を増やして欲しい」そんな声を受け、昔からおいしい料理で評判のサンモール西横浜商店街の「ファミリーカフェ マドカ」さんにお願いし、もう一つのなかま食堂ができました。

　活動を知った横浜市中央卸売市場の金港青果株式会社や近隣の商店街から、新鮮な野菜の寄付を頂き、更においしい食事の提供ができるようになりました。

「いつもは一人で食べているので、この食堂があって本当に嬉しい。」と、楽しみにしてくれる方の声が届き、あたたかな食事の場の大切さを、改めて実感しました。

　中川さんは言います。
「ここは、一人でも、誰でも来られる食堂です。ここに来た時は、遠慮せず、安心して、おいしい食事の時間を過ごして欲しい。」と。

　保育園も地域の中の一員。子どもたちが安心して暮らせるように、地域の方々と共に、できることに取り組んでいきたいと考えています。

帷子川の川沿いをお散歩。「こんにちは」と声をかけてくれる人も。

認定 NPO 法人ムーミンの会
〒220-0055
神奈川県横浜市西区浜松町 10-10
子育て支援施設　なかまの杜
TEL：045-315-2141 / FAX：045-315-2538

にしとも広場の使い方

市民活動や地域活動の相談 編

にしとも広場では、市民活動・地域づくりに関する相談をお受けしています。

主な相談例	
家にいることが多いので 近くに出かける先が欲しい	○○が得意なので 何かに活かしたい
ボランティアをはじめてみたい	イベントのチラシを置きたい

“予約制相談”始めました!

団体運営何でも相談日 - NPO 会計、労務のお悩みなど、お気軽に -

日 程　毎月　第 3 火曜日
時 間　10:00 ～ 16:00（予約制）
担 当　にしとも広場センター長　加世田 恵美子

はじめの一歩じっくり相談日 - 地域で活動するための第一歩に -

日 程　毎月　第 2 月曜日
時 間　10:00 ～ 16:00（予約制）
担 当　にしとも広場スタッフ

場所：にしとも広場 / TEL：045-620-6624

お電話お待ちしています。

＊地域人材ボランティア「西区街の名人・達人」のコーディネートも行っています

編集後記

情報紙「にしとも広場」は、今号で 10 号目。そして、にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、開設から今年で 4 年目を迎えました。

今年度の情報紙「にしとも広場」のコンセプトは、「区内外のユニークな取り組みや先進的な取り組みを中心に、これからの地域活動・市民活動に役立つ情報の発信」です。10 号の感想を、代表メール宛にお気軽にお寄せください。

にしとも広場 11 号は、
2 月発行予定です。
お楽しみに！

“にしとも広場”ってどんなとこ？

にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。
「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といったご相談をお待ちしています。ぜひ一度お立ち寄りください。

にしく市民活動支援センター
にしとも広場

管理運営：認定ＮＰＯ法人市民セクターよこはま
TEL/FAX：045-620-6624

Eメール　ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp
ホームページ　http://www.nishitomo.city.yokohama.lg.jp/
住　所　横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階
開館時間　9:00～17:00
休館日：毎週水曜日・年末年始（12/29～1/3）
アクセス　京浜急行「戸部駅」徒歩 8 分
相模鉄道「平沼橋駅」徒歩 10 分

情報紙「にしとも広場」は、
西区内の郵便局、地区センターやコミュニティハウスなどの公共施設に配架しています。

発　行：にしく市民活動支援センター“にしとも広場”
発行日：2017 年 9 月

承認西区第 18 号